

美容アナリスト
中村祐子の
しあわせコスメ
美容相談 第4回



美容に関する「今さらこんなこと聞けない」や、ちょっと
ヘヴィな質問まで、美容アナリスト中村祐子がお答えします。
一生懸命&具体的に回答しますので、どうぞよろしく!

A ご質問者の方のように、忙しい女性のニーズにあわせてか、日本でも韓国のBBクリームのようなオーリンファンタイプファンデーションが人気ですね。

Q 出かける前も日中もなかなか化粧直しできない仕事をしています。短時間でスキンケアとメイク、紫外線対策ができ、化粧崩れしにくく、なおかつ肌に優しい……そんなファンデーションがあったら教えてください。

ち なみに、この「BB」とは、B（は）不得手なようです。また、スキンケア e m i s h B a i m (プレミッシュ) バーム)の頭文字をとった略語で、肌の欠点や傷みを補修するクリームという意味。もともと、皮膚科や美容外科での治療後に敏感になっている肌を刺激から守るために開発されました。保湿、美容液、補修のスキンケア要素に加え、紫外線対策、ファンデーション機能までついています。とは言え、やはりその発想はバーム(クリーム)なので、ファンデーションとしての美しい仕上がり化粧もち、日本人の肌色にフィットするカラーなど

そこ、いろいろなファンデーションを検証してみたのですが、私が愛用しているファンデーションこそ、日本人にとって究極のBBクリームであり、ご質問者の方に喜んでもらえるファンデーションではないか!? という結論にいたりました。そのファンデーションとは、リマナ

チュラルのピュアUVリクイドファンデーションなんです、この商品の波動のよさは、化粧品とは思えないほど!

成分のほとんどを占める天恵水と伊豆利島の無農薬椿油が、製品にとってもよい波動を与えているみたい。肌、生体にとっていい水とは、「雪解け水が地層、岩石層中のミネラル成分を溶かしつつ、長い年月をかけて浄化されてアルカリ性に傾き、活性力を持った水」とか「粒子の細かい水」だと言われていますが、天恵水はまさにそれ。さらに非加熱除菌されているのも

ポイント。市販の加熱殺菌した水は、組織が崩れ、溶存酸素、水素などが分離して活性力を弱めてしましますが、天恵水は特殊なフィルターで非加熱除菌をして、そのため、湧出したままの自然のバランスを保っている高波動水なのです。また、椿油の主成分オレイン酸は、私たちの皮脂に含まれる成分と同じ。酸化しにくく、乾きにくい油脂なので、皮膚の保湿&保護剤としても優秀。紫外線や化学物質などさまざまな刺激から肌を守ってくれます。国産で無農薬の椿油なので、よりその力も高いようですね。

もちろん、皮膚に刺激となりやすいタール系色素、ケミカルな紫外線吸収剤、香料、鉱物油は不使用。SPF15、PA++のUV防御効果があります。しかも、スルスルとのびのいい乳液状で肌にびたっとフィットするのに皮膚呼吸をさまたげず、1日中メイク崩れしません。もうそれは感動的なほど!

また、通常は難しいファンデーションの色選びも簡単。日本人であれば、ほとんどベージュのリクイド+ベージュのパウダリーの組み合わせで肌色にベストマッチ、美色に仕上がります! 天然の無機顔料が、その人その人の肌色とミックスされて、カスタマイズしたように肌から浮かない色になるようですね。もちろん、すこく肌色の白い方、小麦色の方も、必ずピタッとあう運命の1色が見つかるので、できれば店頭で試させてもらってください。いずれにしろ、ファンデーションにも「身土不二」が大切なのだと思います。

今回ご紹介のアイテム



リマナチュラル
ピュアUVリクイドファンデーション
全4色 各30mL
¥3,990 (本体価格¥3,800)
205 グリーン 215 ピンク
225 ベージュ 235 アーモンド

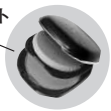
リマナチュラル ピュアUVファンデーション

本体 全3色 ¥4,725 (本体価格¥4,500)
詰替 全3色 ¥3,675 (本体価格¥3,500)
211 ピンク 221 ベージュ 231 アーモンド



リマナチュラル ピュアUVモイスチャーパクト

本体 全3色 ¥3,990 (本体価格¥3,800)
詰替 全3色 ¥3,150 (本体価格¥3,000)
216 ピンク 226 ベージュ 236 アーモンド



中村祐子 美容アナリスト

肌と環境に優しい「波動美容」を実践。女性誌に連載を持つ。また自身のホームページや東京(品川)と関西(夙川)のメンバーズビューティーサロンにて、個人カウンセリングにもこたえている(会費月額200円)。著書「人生を変える「カリカ美容」」(マネジメント社)。http://www.nakamura-yuko.com

質問募集

皆さまからの質問を募集します。
巻末ハガキをご利用のうえ、マクロビオティック編集部までお寄せください。

※当誌面以外での個別回答はできかねますので予めご了承ください。